

# 令和8年度 学校経営方針

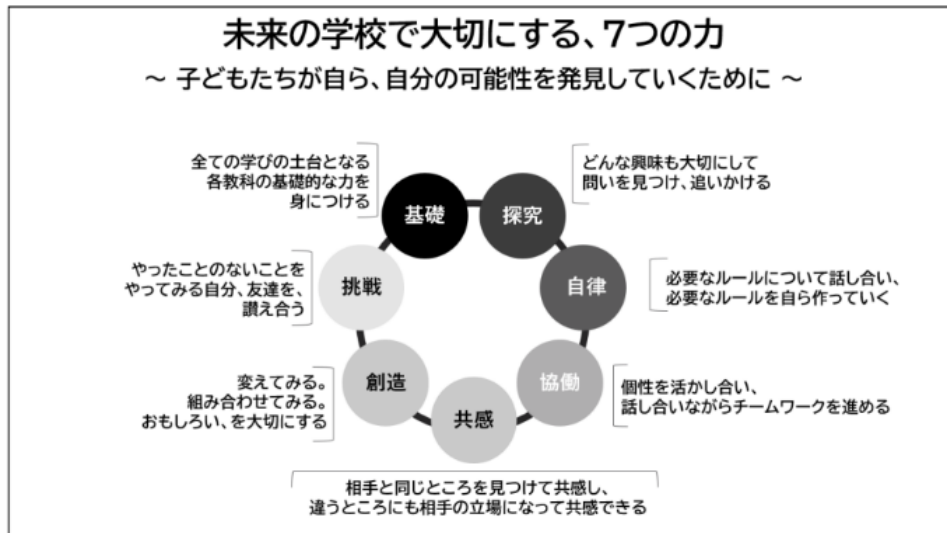
令和8年4月17日

渋谷区立猿楽小学校 校長 永山 恵子

## 0 はじめに

＜渋谷区の教育と重点的な取組 R8.2＞

**渋谷区の教育目標**  
**つくろう。ちがいを活かし合える、未来の学校。**  
未来の学校では、子どもたちの「好き」とことん追究し、先生や友達、地域、社会とともに、「本気でやりたいこと」に挑戦していきます。



## 令和8年度 7つの力を育むための重点的な取組

基礎	探究	自律	協働	共感	創造	挑戦
<b>重点取組 01</b>	<b>子ども主体の「未来の学校」づくりの推進</b> 全ての学校で、教育大綱に掲げる、「つくろう。ちがいを活かし合える、未来の学校。」を実現するため、子どもたちが主体的に自校の運営に携わったり、学びを自らつくり出した力育成を目指します。具体的なアクションのため、子どもたちが本音を自分の言葉で語り合う対話の場を設けます。そして、子どもたち、先生たち、地域と一緒に未来の学校をつくりあげます。これにより、子どもたちが将来、社会参画し、自らの手で未来を切り拓く力を養います。					
<b>重点取組 02</b>	<b>一人ひとりの「ちがいが」が活きる新たな学び・探究の推進</b> 個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びの視点から、客観的な根拠を踏まえた学びの変革を進め、自律した学習者として自ら判断して学び続ける力、多様な仲間と協働して新たな価値を創造する力、自分が思い描く未来の実現のために挑戦する力を養います。また、架け橋の連続性を確保し、幼児期からこれらの力の基礎を培います。その実現に向けて、子どもたちが、自ら問いを立てて楽しく学べる支援者としての教員を育成します。					
<b>重点取組 03</b>	<b>誰でも安心・安全に挑戦できる教育環境の整備</b> 人はみんな違うという多様性を理解し、互いを大切にしてい互いのがんばりを応援し合える教育を目指します。教育活動全体を通して、子どもたちが自分の行動に責任をもち、共感、思いやりの心を大切にしながら他者と十分に聞かれるような機会を重視します。また、どの子どもも安心して学んだり、自分の力を出したりできるように、安心・安全な教育環境を子どもたちと一緒につくります。					
<b>重点取組 04</b>	<b>テクノロジー活用によるDXの加速化と教員の働き方改革の推進</b> テクノロジーを活用したDXの推進により、教職員の業務負担を軽減し、教育の質の向上につなげます。また、教職員がチームとして組織的に、新しい取組に挑戦したり、学校で生じる様々な課題に対応したりすることを通して、教員としてのやりがい、達成感、成長を感じられる環境や制度を整えます。					
<b>重点取組 05</b>	<b>地域と子どもの未来を共創する学校づくりの推進</b> コミュニティ・スクールとしてまちぐるみの協力を得ながら、子どもの育ちを支え、地域と共創し、探究する学校づくりを目指します。また、教育課程外でも子どもたちが健やかに成長できるよう、小学校で朝に安心して楽しく過ごせる見守り体制の整備や放課後の豊かな体験機会を創出するとともに、地域が支える部活動改革に取り組み、子どもたちが大人と一緒にスポーツや文化活動に楽しく挑戦できる環境の充実を図っていきます。					

## 1 本校の学校経営の基本経営ビジョン

～子どもも大人も笑顔あふれる学校～

「子どもの幸せのためにある学校」を基本理念とし、自分と自分のまわりをよりよくする力を育む。

今年度、110周年を迎える本校において、子どもたち・地域・保護者・地域の皆が「猿楽小学校でよかった」と笑顔であふれる姿を目指す。

## 2 本校の教育目標

「感じ 考え 広げる 子ども」

- 感じる子ども  
自己の感性を磨き、相手の気持ちを尊重し、温かいコミュニケーションを通して、人との関わりや生活をより豊かにできる子ども
- 考える子ども  
自ら問いをもち、見通しをもって課題解決に取り組み、思考や観察、調査等を通して、よりよい考えや方法、成果を導き出せる子ども
- 広げる子ども  
自ら学んだ知識や考えを表現し、他者と共有することで学びを深め、生活に生かし、よりよい生き方を実現しようとする子ども

## 3 学校の教育目標を達成するための基本方針（参照：渋谷区のR8の重点的な取組）

- (1) 子ども主体の「未来の学校」づくりの推進についての方針
  - 「子ども発」を重視し、児童が自分の言葉で語り合える対話の場を設定するとともに、児童・教員・地域が一体となって未来の学校をつくる。
- (2) 一人ひとりの“ちがい”が活きる新たな学び・探究の推進についての方針
  - 自分に合った学習方法を考え取り組む児童の育成を目指すとともに、仲間とよりよい学び方を探究し、目標達成を目指す教育活動の充実を図る。
- (3) 誰でも安心・安全に挑戦できる教育環境の整備についての方針
  - 全教育活動を通して、温かいコミュニケーションを基盤とした取組を推進し、多様な考え方を受け入れるしなやかな心やレジリエンスを育成する。
  - デジタル・シティズンシップ教育を推進し、ICT機器を当たり前前に活用することを基本としながら、より効果的に活用する。
- (4) テクノロジー活用によるDXの加速化と教員の働き方改革の推進についての方針
  - 校務の効率化を進め、教職員が時間的・精神的な余裕をもって授業づくりにあたる。
  - 学年チーム担任制、学年教科担任制、ブロック長制を導入し、組織的にチームで対応できる学校体制を構築することで、質の高い教育を推進する。
- (5) 地域と子どもの未来を共創する学校の推進についての方針
  - 「心、つなぐ」をテーマに、110周年に向けて子どもを中心に、学校・地域・保護者が一体となった取組を推進し、関わりを知り、未来へとつなげる。
  - 学校運営協議会や地域・保護者・地域企業と連携・協力し、多様な人材を招き、様々な生き方や考え方に触れ、主体的に学び続けようとする態度の基盤を育む。
  - 保護者や地域ボランティアが「はぐくみボランティア」として教育活動に参画する体制を整え、児童の「地域に育てられている」という意識の醸成を図る。
  - 次年度に50周年を迎える富山県射水市立金山小学校との姉妹校交流を通して、歴史を学び、郷土愛、互いを思いやる心を、保護者・地域と連携して育成する。
  - 地域の人的・物的資源を生かし、将来の生き方について考える教育活動を展開する。
  - 学区域の大使館との交流を通して他国に親しむとともに、自国への理解を深め、身近な地域から世界へと視野を広げる国際理解教育を推進する。

## 4 指導の重点

### 【各教科】

- (1) 子どもたちの「好き」を追求し、「子ども主体の未来の学校」を目指す
  - 「子ども主体の楽しい学び」の支援者として、子どもたちが「好き」「やりたい」と本気で思える事柄に没頭して取り組めるよう、学びの変革に挑戦する。
  - 自ら問いをもち、学ぶ内容や方法を選択し、課題解決に向けて調べたことを基に自分の考えをもち、対話を通して考えを深め、広げ、発展させる授業を実施する。
  - 教科横断的な学習を推進し、探究的な学びを展開する。
- (2) デジタルを活用した探究学習および個別最適な学習の充実を図る
  - 授業はデジタルの活用を基本とし、デジタル・シティズンシップの育成を図る。
  - 「全国学力・学習状況調査」「東京ベーシックドリル」や等を活用して学習履歴を収集し、基礎・基本の確実な定着を目指した補充学習（学びプラス）を行う。

- (3) 指導と評価の一体化を図り、教育の質の向上を目指す
- ・次の学習に生かし、HACHI アプリや対話・共有ツールを活用した振り返りを行う。教員は授業改善や評価に生かし、確かな学力の定着を図る。
- (4) 個別最適な学習の推進
- ・1、2年生の国語・算数では、授業形態を工夫する。3年生以上の算数では、各学年が習熟度別指導を行い、補充的指導や発展的指導を実施する。
- (5) 外国語によるコミュニケーション能力の基礎の育成
- ・5、6年生は、ALT やデジタル教材を効果的に活用し、言語や文化について体験的に理解を深める。音声や表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の基礎を養う。
- (6) 児童の運動習慣の形成
- ・重点項目を決め、体育の授業や休み時間の遊びにおいて重点的に楽しく取り組む。
- ※人工芝改修工事及び遊具更新工事等考慮**
- ・文化庁登録講師やプロスポーツ選手、スポーツクラブ指導員等を招聘し、意欲と技能の向上を図り、楽しく体力向上に取り組む。
- (7) 数学的・理科的な見方や考え方を養う
- ・こども科学センター・ハチラボ、コスモプラネタリウムなど地域施設を活用するとともに、理数教育やプログラミング教育を充実させる。
  - ・「令和8年度未来の学びモデル校（渋谷区）」「令和8年度教育課程実践検証協力校（東京都）」として算数科の研究を推進する。
- (8) 読書および調べ学習の環境を整え、読解力を育成する
- ・学校図書館や区立図書館の活用（学年文庫・しぶやおすすめの本50）、読書アプリ、読書週間、読み聞かせ、学校図書館専門員・保護者・地域人材の活用等を推進する。
- 【特別な教科 道徳】**
- 特別な教科 道徳の指導の充実を図る
- ・全学年の重点を「思いやりの心」と「自他の生命を尊重する態度」とする。
  - ・全教育活動を通して、道徳的判断力・心情・実践意欲および態度を育成し、道徳教育推進教師を中心に、研修会の実施、年間指導計画および別葉との関連付けを図る。
- 【外国語活動（英語活動）】**
- 英語活動の日常化を推進する。
- ・外国語活動指導教員とALT が連携し、楽しく英語に触れ、学習できるようにする。
- 【総合的な学習の時間】**
- (1) 児童が多様な仲間と協働し、学びを深化させる探究活動の充実
- ・子どもたちの「好き」を追求し、「やりたいこと」や「好きだ」と本気で思える事柄に出会い、夢中になって取り組み自分事として学びを深められるようにする。
  - ・課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現を繰り返し行い、学びを自己調整できるように、探究ハンドブック、探究ポータルサイト、My 探究ページを活用する。
- (2) 互いのよさを生かし社会参画しようとする態度を養う
- ・地域の人材・施設等を活用し、本物体験ができる多様な学びを工夫する。
  - ・探究のテーマ学習において、企業やゲストティーチャーと連携し、児童主体のプログラムを行う。
- (3) 自分たちの住んでいる地域への愛着を深める
- ・郷土の観光、文化、歴史、政策等について、姉妹校である富山県射水市立金山小学校に情報発信する活動を実施する。保護者や地域と共創する教育活動を推進する。
- (4) 外国及び自国への理解と愛着を深める
- ・学区域内の大使館との交流を通して、外国および自国の文化、教育、歴史等について見聞を広げる。
- 【特別活動】**
- (1) 互いのよさや可能性を発揮し、よりよく成長し合える集団活動を展開する
- ・各教科や探究「シブヤ未来科」と関連付ける。児童主体の会議や子ども発イベント等の企画・運営を通して、対話による学校運営を推進する。
- (2) 将来の生き方を描くための意思決定と実践につなげる。
- ・学級活動や児童会活動では、学校生活をよりよくするための課題を見だし、合意形成や役割分担を通して実践する活動に自主的・実践的に取り組ませる。
  - ・クラブ活動や学校行事では、児童が「こうしたい」と本気で思える事柄に没頭して取り組める体験を積ませる。また、集団への所属感や連帯感を深める。

## 【特別支援教育】

### (1) 過ごしやすく学びやすい学校生活の実現

- ・児童の居場所を確保し、ユニバーサルデザインを意識した授業及び環境をつくる。「楽しい」「よさを認めてくれる」「悩みを相談できる」と感じる学校づくりを進める。

### (2) 組織的な特別支援教育の充実

- ・教職員等と連携し、校内委員会を開催する。指導・支援の改善を図り、校内研修を行い、教職員の専門性向上を図る。
- ・特別支援教育コーディネーター及び特別支援委員会を中心に、教職員間での共通理解を図り、各関係機関等と連携した研修会を実施する。

## 【教育活動全体】

- ・学校教育および家庭学習において、児童が試行錯誤しながら「学び方を見付ける」過程を重視した教育活動を、学校・保護者・地域ボランティアと連携して進める。
- ・就学前オープンスクールにおいて、地域の保育園・幼稚園児との交流活動を行い、人との関わりを通して健全な心を育成する。
- ・Kids VALLEY 事業を活用し、タブレット端末を活用した情報収集、プレゼンテーション能力の育成、プログラミング教育、自由進度学習及び個別最適な学びの推進を図る。

## 【生活指導】

### (1) 温かなコミュニケーションの醸成

- ・人間関係構築の基礎とし、「あいさつ名人、先に、笑顔で、何度でも」を意識させる。
- ・全児童の「子どもあいさつ隊」を通して主体的に挨拶ができる児童を育成する。

### (2) 規律ある学校生活を送ろうとする心情や態度の育成

- ・相手を意識した言葉遣い、挨拶や時間を守ることなど、基礎的生活習慣の主体的な改善を推進する。

### (3) 課題の早期発見・早期対応

- ・全教職員が共通理解のもとで指導に当たれるよう、週に一度、生活指導夕会を設定し、児童の様子や課題の発生事例について情報共有を行う。
- ・学年チーム担任制を生かして学年力を高め、低・中・高ブロックにブロック長を配置することで、児童理解を深め、チームによるきめ細かな生活指導を行う。

### (4) 防災意識、自己判断力、危機対応能力の育成

- ・安全指導および避難訓練を実施する。アレルギー事故防止のため、月1回、管理職と関係教職員による献立会議を行い、除去食等の的確な配膳を徹底する。

### (5) 人権意識の向上

- ・「温かい言葉がけ」を意識した指導をする。組織的な未然防止・早期対応を行う。
- ・いじめ防止に向け、職員研修を実施するとともに、全学年で防止の授業を行う。アンケートを隔月で実施し、未然防止・早期発見・早期対応を図る。

### (6) 児童の危機管理能力の育成

- ・タブレット端末、インターネット、SNS等の適切な利用に関する教育やハイテク犯罪防止を含むセーフティ教室、薬物乱用防止教室、地域安全マップ作成を実施する。

## 【進路指導】

### 将来に対して夢や希望をもつことができるよう指導の充実

- ・全教育活動を通して、自分のよさを理解し、自分で考え決定し、将来に対して夢や希望をもつことができるよう指導の充実を図る。
- ・就学前オープンスクールにおける近隣保育園との連携では、シブヤ幼保小架け橋プログラムに基づき、交流を行い、児童が自己肯定感を高め、思いやりの心を育む。
- ・鉢山中学校との体験授業や児童・生徒間交流を行い、自己の生き方を考え、夢や希望をもって進学できるよう、キャリア教育および進路指導の充実を図る。
- ・多様な経験をもつ保護者や地域人材をゲストティーチャーとして招き、児童が将来の夢や希望、学び続ける意欲をもてるような活動を推進する。

## 【働き方改革】

- ・課題に対して、チーム担任制等を生かし組織的に対応する。学年経営のシステム化及び学年教科担任制の導入により、教員の専門性を高め、教材研究時間の縮減を図る。
- ・組織的な研修計画に基づき、水曜日の午後には校内研修や校外研修への参加を推進し、教員の意識改革および専門性向上を図る。
- ・ICT・クラウド環境・学校ポータルサイトを活用した校務の効率化を推進する。
- ・「子どもにとってよいか」という視点で行事や通知を精選し、教育の質の向上を図る。